

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 《 目 次 》

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生の確保の見通し

- ①定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・ 3
- ③学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

#### (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・・・ 6

### 2. 人材需要の動向等社会の要請

#### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・ 7

#### (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生の確保の見通し

##### ① 定員充足の見込み

看護学研究科看護学専攻博士課程（後期）においては、アドミッション・ポリシーを以下のように定めている。

##### 〔教育・研究目的〕

本課程は、博士課程（前期）での教育・研究をさらに深化させ、看護学の研究者として自立した研究活動を行うのに必要な高度な研究力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを基本的な理念として、看護実践に活用可能な理論の構築や方法の開発を目指し、科学的な思考に基づいた高度な研究・教育・実践活動を推進することのできる女性を育成する。これらの人材を社会に輩出することで、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与することを目的とする。

##### 〔人材養成の指針〕

本課程では、実践的で応用可能な看護学の理論の構築や方法を探究できる教育研究力を備え、指導的役割を担うことのできる人材として、教育研究、臨床や地域など多様なフィールドで活躍し、看護継続教育や学生の臨地実習に携わる看護職者、看護系大学教員等の次世代育成や看護学の発展に寄与できる女性を育成する。

##### 〔求める学生像〕

本課程では、上記の目的を達成するために以下のような人物を求める。

1. 看護学を研究する者として、倫理観を備え、看護学研究の進展に貢献したいという情熱を有し、新たな看護の開発に向けた研究に強い意欲のある者
2. 看護学に関連する基礎的な研究能力を有し、自立して学修に取り組む姿勢を備えている者
3. 保健・医療・福祉をめぐる環境が大きく変化中、そうした環境を取り巻く様々な課題解決のための看護実践に関連する理論の構築や方法の開発など、研究、教育、実践において、社会に貢献しようとする強い意欲を持つ者

上記のアドミッション・ポリシーに基づく学生の受け入れにあたり、本課程の入学者としては、高度な専門性や指導的役割を担える教育研究力を修得し、健康・福祉の向上や看護学の発展に貢献したいと考える、現職の看護職者や看護教員、看護系大学院修士課程の修了者を想定している。

近年、全国の看護系大学数は急増しており、平成30（2018）年度の看護系大学・学部等は265校となり、平成3（1991）年度の11校に対し、約24倍に増えている。この学士課程の増加に伴い、看護系大学院修士課程は176大学、博士課程は95大学と増加してきている。

また、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学入学志願動向」によれば、私立大学院の博士課程及び博士後期課程においては、平成30（2018）年度の入学定員充足率は、看護学研究科を除く全研究科で52.54%（入学定員8,350名、入学者数4,387名）であるのに対し、看護学研究科は100.0%（入学定員、入学者数ともに109名）となっており、他の分野と比較して学生が確保できている状況にある。過去5年間（平成26（2014）年～平成30（2018）年度）の平均をみても、看護学研究科を除く全研究科が入学定員充足率52.1%であるのに対し、看護学研究科は博士後期課程の設置数も増加傾向にあるなかで、平均100.2%と安定して入学者を確保している状況であるのがわかる。【資料1】

本課程の位置する近畿地区においては、平成30（2018）年度現在で、看護系大学院は、国公立あわせて修士課程は32校、博士後期課程は15校に設置されている。修士課程の入学定員が478名、博士後期課程の入学定員は104名である。京都府に限れば、修士課程が6校で85名、博士後期課程は3校で21名の入学定員となる。

前述の近畿地区における看護系大学院博士後期課程15校の入学定員数の平均は、6.93名となっている。このうち、京都大学（入学定員15名）、大阪大学（入学定員23名）、神戸大学（入学定員25名）の国立の大学院3校は、専攻のなかに複数のコースや領域を設置しているため、それを含めずに看護学に限定した公立及び私立大学院12校の入学定員を平均すると3.42名となる。この12校のうち、9校は入学定員を3名に設定している。

近畿地区における看護系大学院博士後期課程の入学定員充足状況は、平成30（2018）年度については、近畿地区15校で104名の入学定員に対し、入学者は128名となっている。入学者数が入学定員を下回る大学院が4校あるが、近畿地区15校の平均入学定員充足率は116.8%で、全体としては入学定員を上回る入学者を確保している。京都府に限れば、3校すべてが入学定員を充足しており、合計21名の入学定員に対し、31名の入学者数であり、3校の平均入学定員充足率は140.0%になる。【資料2】

以上のように、全国的にみても、本学の位置する近畿地区あるいは京都府に限定しても、看護系大学院の博士後期課程は定員充足の見込みが十分あると言える。

日本看護系大学協議会の実施した「看護系大学の教育等に関する実態調査」（2016年度状況調査）によれば、看護系大学の教員7,772名の最終取得学位について、博士学位取得者が2,491名（32.1%）、修士学位取得者4,487名（57.7%）となっている。【資料3】前述のとおり、看護系大学・学部等の設置の増加に加え、看護系大学院の設置も増加してきており、必然的に看護系大学の学部教員だけでなく、看護系大学院の教員数が増加傾向にある。大学設置基準第14条においては、「教授の資格」の一つとして「博士の学位を有する」ことを条件としている。また、大学院設置基準第9条においては、大学院の教員資格の一つとして、学位に言及した条件としては、「博士の学位を有する」ことが規定されている。

看護系大学の教員で博士学位を取得していない教員（前述の調査では5,281名）のうち一定数については、自身の希望や所属大学からの奨励により、将来的に博士学位の取得を目指すことが推測される。これらの教員は潜在的に博士後期課程への入学志願者の候補と

なりえると考える。

また、京田辺キャンパスから、公共交通機関を利用して1時間程度で移動できる範囲内には、医療財団法人康生会武田病院（病床数394床）、独立行政法人国立病院機構京都医療センター（病床数600床）、医療法人医仁会武田総合病院（病床数500床）、社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院（病床数370床）、京都山城総合医療センター（病床数321床）等がある。また、学術交流に関する包括協定の締結病院として、独立行政法人国立病院機構南京都病院（病床数350床）、医療法人社団石鎚会田辺記念病院（病床数120床）、医療法人社団石鎚会田辺中央病院（病床数188床）、宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院（病床数581床）がある。

そして、本学看護学研究科看護学専攻修士課程（入学定員6名）に加えて、近隣私立看護系大学院で博士課程を設置していない研究科（修士課程）として、京都光華女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（入学定員5名）、京都看護大学大学院看護学研究科看護学専攻（入学定員7名）、摂南大学大学院看護学研究科看護学専攻（入学定員6名）、藍野大学大学院看護学研究科看護学専攻（入学定員6名）、奈良学園大学大学院看護学研究科看護学専攻（入学定員8名）、畿央大学大学院健康科学研究科健康科学専攻（入学定員20名）等がある。

このように、本課程の入学者と想定される母集団が、本学京田辺キャンパスの近辺に存在していることは、本課程が安定的に入学者を受け入れ、定員を充足するうえでの好条件と言える。

更に本課程の設置に際し、現職の看護職者、看護系大学の教員、看護系大学院の在学学生を対象として、第三者機関によるニーズ調査（入学意向アンケート）を実施した。

本課程の入学意向アンケートには、全体で138名から回答があり、そのうち本課程の出願資格を調査段階で満たす大学院修了者（大学院生の修了見込みを含む）44名の回答について、本課程への入学意思を尋ねた設問に対しては、「合格した場合、入学したい」が7名、「状況によって入学を検討する」が7名という結果であった。【資料4】

以上のように、全国、あるいは本課程と同じ近畿地区に所在する他大学院の入学定員の充足状況、本課程の入学者として想定される母集団の存在、第三者機関によるニーズ調査の結果等を総合的に判断し、本課程の入学定員を3名に設定することは妥当であり、その入学定員を充足する見込みがあると考える。

## ② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### a) 他大学看護系大学院の定員充足状況等について

本学では、近畿2府4県の出身者が在学生全体の約77%を占めており、近畿地区を重点強化地域と位置付けて学生募集活動を展開している。看護学部及び看護学研究科（修士課程）において、この傾向は顕著であり、近畿地区の出身者が約84%を占めている。この近畿地区において、平成30（2018）年度時点で、国公立で15校の看護系大学院博士後期課

程が設置されており、うち私立大学大学院は6校が設置されている。

この近畿地区に設置された看護系大学院博士後期課程の入学状況について、各大学ホームページにて公開されている情報によると、平成30（2018）年度入学試験における国公私立15校の平均入学定員充足率は116.8%（15校の入学定員104名、入学者128名）であり、私立6校平均入学定員充足率は156.7%（6校の入学定員20名、入学者31名）と、ともに入学定員を上回る入学者を確保している。【資料2】

また、前述のとおり、当該分野の全国的な傾向として、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」の入学志願動向（平成26（2014）～平成30（2018）年度の平均）を見ると、看護学研究科の博士課程及び博士後期課程の入学定員充足率が100.2%であり、平成26（2014）年度からの5年間で12研究科（入学定員46名）が増加しているなかで、平成30（2018）年度の入学定員充足率は100.0%となっている。全国における看護系大学院博士後期課程の学生募集状況の現状として、他分野の研究科における、平成26（2014）年度から5年間の平均充足率52.1%と比較すると、看護学研究科に対するニーズの高さがうかがえる。【資料1】

#### b) 第三者機関によるニーズ調査およびその結果からの見通し

現職の看護職者、看護系大学の教員、看護系大学院の在大学生を対象として実施した入学意向アンケート調査は、平成30（2018）年10月～12月にわたって、本学の位置する京都府を中心に近隣府県の373機関（施設）（病院：160カ所、介護保険関連施設：53カ所、訪問看護ステーション：50カ所、他大学看護学部22カ所、地方自治体：88カ所）に対して実施した。【資料4】

女性の回答者138名のうち、本課程の出願資格を調査段階で満たす最終学歴が「大学院修了」（大学院生は修了予定も含む）の回答者は44名であり、そのうち本課程を「受験したい」と回答した者は14名という結果になった。

更に、「受験したい」との意思を示した者に対して、入学の意思を尋ねた設問「同志社女子大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程（後期）を受験し合格した場合、入学したいと思いますか」への回答状況は、「合格した場合、入学したい」が7名、「合格した場合、状況によって入学を検討する」が7名という結果になった。

また、最終学歴が「大学院修了」以外の回答者（無回答1名除く）93名に対して、将来の看護系大学院への進学意向を尋ねた設問「将来、看護系大学院に進学したいと思いますか。」への回答では、「進学したい」が13名であり、そのうち「同志社女子大学大学院看護学研究科を進学先として検討されますか」の設問に対して、「第一志望にしたい」と回答した者はいなかったが、13名全員が「選択肢の一つにしたい」と回答している。

そして、前述の入学意向アンケート調査と同じ373機関（施設）の看護部長や人事・採用担当者を対象に実施した採用意向についてのアンケート調査の中で、勤務する看護職者や看護教員に対して、本課程で学ばせるために、進学や入学させることの意向を尋ねた設

問に対して、「研修制度（就学助成金）・休職制度などを利用させ、進学・入学させたい」が4件（3.4%）、「現職のまま（社会人として）進学・入学させたい」が9件（7.7%）、「進学・入学を推奨するが、本人の意思に任せる」が42件（35.9%）の回答があった。全117件の回答のうち、55件（47.0%）が、何らかの形で本課程への進学・入学させることを推奨したいと回答した。【資料5】

本課程への入学者は、臨床現場等において勤務している現職の看護職者、看護系大学の教員、本学も含め看護系大学院修士課程の修了者を想定しているが、近隣の医療機関で勤務する現職の看護職者、近隣の看護系大学で勤務する看護教員、近隣の看護系大学院修士課程修了者が、それぞれ一定数存在していること、第三者機関によるニーズ調査の報告をふまえ、本課程の入学定員3名を長期的かつ安定的に充足することは十分可能であると認識している。

### ③学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学院の運営に係る財政的視点と学生の経済的負担への配慮、質の高い教育・研究の維持、他の看護系大学院研究科の学生納付金とのバランスを見極めながら、本課程の学生納付金を、初年度78万円（入学金18万円、授業料60万円）、3年間合計を198万円に設定した。

本課程の学生納付金は、近畿地区の国公立看護系大学院15校の博士後期課程の平均金額と比較して、初年度の納付金で7万円程度低くなっており、私立大学院に限定して比較すると、初年度納付金で12万円程度低くなっている。現在、近畿圏の看護系大学院博士後期課程の学費は、私立でも国立より低く設定している大学院が3校もあり、設置主体により金額の高低が決まっているわけではない。国公立15校と私立6校の平均金額に大きな差がないのが現状である。本学としては、競合すると考えられる私立の大学院の学費等も勘案し、可能な限り学生の負担を軽減する金額設定を検討し、結果として国公立15校の平均よりも下回り、学生募集の観点からも妥当な金額であると考えている。なお、標準修業年限である3年間の合計納付額についても平均額を下回っている。【資料6】

あわせて、本課程の入学者として想定している現職の看護職者や看護系大学の教員等、社会人への対応として、長期履修学生制度を適用することで、3年間の学費の金額で最長6年間在籍できることになり、社会人の就学を経済的に支援する方針をとっている。

（単位：円）

	入学金	授業料等	初年度計	3年間合計
同志社女子大学大学院看護学研究科 看護学専攻 博士課程（後期）	180,000	600,000	780,000	1,980,000
近畿圏私立看護系大学院6校の平均金額	220,000	685,000	905,000	2,275,000
近畿圏国公立看護系大学院15校の平均金額	254,200	595,480	849,680	2,040,640

※本学以外の学生納付金は、2018年度現在、各大学院のホームページ等にて公表されている金額に基づき算出。

## (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

### ① 本学看護学部及び看護学研究科（修士課程）在學生に対する取り組み

本課程の基礎となる看護学部及び看護学研究科（修士課程）の在學生に対しては、本課程の設置構想を説明し、直近あるいは将来的な本課程への進学に対する動機付けを図る。

平成 30（2018）年度に開設した看護学研究科看護学専攻（修士課程）は、第 1 期の修了生が、本課程の開設初年度の入学対象者となるため、設置構想の概要等も示した入学意向のアンケート調査票を配付している。また、「特別研究」等の授業において、指導教員等の担当者から本課程の構想や特色について説明し、将来的な研究活動や進路に対する相談に応じるなかで、本課程への進学も選択肢の一つとなるよう意識付けを行っていく予定である。看護学部の在學生に対しては、将来的な入学候補者として、看護学における研究活動の意義等を説明するなかで、本研究科の設置の趣旨や特色、同じ教育理念の基盤の上に展開する学士課程・博士課程（前期・後期）教育体制のつながり等を説明することで、学部卒業後のキャリアの選択肢の一つとなるような意識付けを行っていく予定である。

また、大学ホームページに設けられている在學生ページや、本学広報誌「同志社女子大学通信 Vine(ヴァイン)」においても周知を図る。「同志社女子大学通信 Vine(ヴァイン)」は、学内の食堂や学生ラウンジ、学部・研究科事務室など、学生が広く利用する共用施設でも配布している大学広報誌であるだけでなく、在學生父母への送付も行われており、在學生・在學生父母に対して幅広い広報が可能である。

以上のように、看護学部教職員からの周知、ホームページや印刷物などを介した周知、そのいずれにおいても、本研究科の設置の趣旨や特色、一貫した教育体制等の丁寧な説明を徹底し、大学院進学に対する在學生の理解を得ていく。

### ② 現職の看護職者、看護系大学の教員、他の看護系大学在學生に対する取り組み

平成 30（2018）年 10 月から 12 月にかけて実施したニーズ調査において、近隣府県の 263 の医療機関、22 の看護系大学、88 の地方自治体の看護職者、看護教員、看護系大学院在學生と、それら 373 機関の人事担当者に、本課程の概要、教育内容の特色等を示した調査票を配布している（入学意向調査は各機関 3 部、採用意向調査は各機関 1 部を送付）。また、本学看護学部の臨地実習先となる医療機関等において、実習担当の教職員から現職の看護職者に対して本研究科の周知に努める。特に、学术交流に関する包括協定を締結している 4 病院については、臨地実習だけでなく様々な取り組みを行うなかでも連携関係を深化させることによって、本課程の設置構想に関する案内や就学の推奨など、学生募集活動における協力が期待できる。

なお、学外に向けた広報媒体については、本学ホームページ上での広報、大学案内等のパンフレットやリーフレットへの掲載に加え、本研究科独自にポスター等を作成し、通学

圏域に所在している医療機関、看護学部・看護学研究科を有する大学等に送付し、広く周知を図っていくこととしている。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

創立以来、永年にもわたって教育研究を展開してきた同志社女子大学には、高度な専門知識を磨くとともに、倫理観、使命感を持ち、幅広く精深な教養を有する豊かな人間性を持った看護職者の養成にふさわしい環境が整っている。本課程は、このような環境のもとで看護実践能力を備えた「質の高い看護職者」の養成を行う看護学部と、看護理論と実践に基づいた研究能力やエビデンスとナラティブを統合できる看護実践能力を備えた人材や高度な実践能力を備える助産師を育成する博士課程（前期）（現修士課程）をもとに、看護学の研究者として自立した研究活動を行うのに必要な高度な研究力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを基本的な理念として、看護実践に活用可能な理論の構築や方法の開発を目指し、科学的な思考に基づいた高度な研究・教育・実践活動を推進することのできる女性を育成する。これらの人材を社会に輩出することで、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与することを目的とする。

実践的で応用可能な看護学の理論の構築や方法を探究できる教育研究力を備え、指導的役割を担うことのできる人材を育成する。修了後に、教育研究、臨床や地域など多様なフィールドで活躍し、看護継続教育や学生の臨地実習に携わる看護職者、看護系大学教員等の次世代育成や看護学の発展に寄与できる女性の育成を図る。

### (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### ① 看護系大学院博士課程に対する社会的ニーズ

平成23（2011）年3月11日の「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」最終報告において、大学院における看護系人材養成について、期待される人材として、「教育者、研究者、高度専門職業人、そして知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材」とある。また、看護系大学の急増による教員の不足傾向や、博士課程に在学しながら教育にたずさわる教員が他分野と比較して多い現状があるなか、「高度専門職業人養成だけでなく、研究者や教育者の充実も喫緊の課題である」とされている。特に博士後期課程の充実については、教育者、研究者養成においてきわめて重要であり、看護学の学術発展の観点から博士課程教育の充実方策についても検討が必要であると述べられている。

そのような状況が現在も続いていることが、平成30（2018）年4月25日に日本看護協会から文部科学省高等教育局長宛に提出された「看護職の人材育成に関する要望書」にも見てとれる。医療提供体制の改革や地域包括ケアシステムの構築などの看護を取り巻く状況は大きく変化するなか、患者像・利用者像も変化している。このような状況下において、



看護職には状況を的確に判断し対応するための看護実践能力の向上やニーズの多様化に対応した役割発揮が求められているとし、重点要望事項として、「大学における質の高い看護学教育課程の推進」を挙げている。大学における4年間の看護師教育の推進を求めるとともに、「看護学の更なる発展のため、教育者・研究者や高度専門職業人の育成に向け、大学院修士課程および博士課程の積極的な設置が必要」との要望が盛り込まれている。【資料7】

以上のように、看護系大学院の設置に対する期待は、博士課程の設置も含めて近年において継続的に寄せられている。わが国において、急速に進展する少子高齢化や、多様な健康観、格差社会、国際化社会、そして高度先進医療等を背景に、看護ニーズが高度化・多様化するなか、本課程の人材養成に関する目的、教育研究上の目的が、広く社会全体からの要請に沿ったものであると考えられる。

## ② 本課程修了予定者の採用ニーズ

本課程の修了予定者に対する採用意向を検証するため、第三者調査機関に依頼し、平成30(2018)年10月～12月にかけてアンケート調査を実施した。【資料5】

調査は近隣府県の263の医療機関、22の看護系大学、88の地方自治体の計373機関(施設)を対象として実施した。

本調査において、117機関(施設)からの回答を得た。その中で本課程が養成する人材の必要性を尋ねた設問「同志社女子大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われませんか。」に対する回答状況は、「とても必要である」が20件(17.1%)、「ある程度必要である」が79件(67.5%)、「あまり必要でない」が13件(11.1%)、「必要でない」が2件(1.7%)、「無回答」が3件(2.6%)という結果になった。「とても必要である」と「ある程度必要である」を合計すると、本課程の必要性が全回答の84.6%において示されたことになる。

また、本課程の修了生の採用の意向を尋ねた設問「貴機関・貴施設において今後、同志社女子大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)が養成する人材(修了生)を採用したいと思われませんか。」に対する回答状況は、「採用したい」が27件(23.1%)、「採用しない」が11件(9.4%)、「どちらともいえない」が78件(66.7%)、「無回答」が1件(0.9%)という結果になった。

更に「採用したい」と回答した27件に対し、採用可能な人数を尋ねた設問において、20件の具体的な人数の回答があり、合計すると39人となる。無回答の7件について、少なくとも1人の採用が可能であると考え、合計で46人となり、本課程の入学定員3名を大きく上回る採用ニーズがあることが確認できた。

## ③ 看護系大学院修了生の就職・進学状況

日本看護系大学協議会による「看護系大学の教育等に関する実態調査(2016年度状況

調査)」によると、看護系大学院博士後期課程を修了した者の主な進路は以下のとおりである。

就職・進学先別		回答者 (博士後期課程)	構成比
就職者	病院・診療所	24 名	13.2 %
	介護・福祉施設関係	2 名	1.1 %
	訪問看護ステーション	0 名	0.0 %
	保健所・市町村・健診センター	1 名	0.5 %
	企業	2 名	1.1 %
	学校（教諭として）	29 名	15.9 %
	大学・短大・研究機関等	103 名	56.6 %
	専修・各種学校	1 名	0.5 %
	その他	1 名	0.5 %
進学者	国内の大学院（看護系）	1 名	0.5 %
	国内の大学院（看護系以外）	1 名	0.5 %
	その他	1 名	0.5 %
その他		16 名	8.8 %
合 計		182 名	100.0 %

博士後期課程の修了生182名のうち、全体の56.6%（103名）が大学・短大・研究機関等、15.9%（29名）が学校（教諭）、13.2%（24名）が病院・診療所に就職している。教育・研究機関に勤務する看護教員が圧倒的に割合としては多くなっているが、全体で就職者は89.6%（163名）で教育現場、研究分野、医療現場等からの高いニーズがあることがわかる。

以上、①～③の検証により、本課程の修了生には、社会的、地域的な人材需要があると判断でき、看護教員や看護職としての活躍フィールドが確保されていると考えられる。

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 《 資 料 目 次 》

- 資料 1 私立大学院看護学研究科博士課程及び博士後期課程入学志願動向
- 資料 2 近畿地区看護系大学院博士後期課程入学定員充足状況
- 資料 3 看護系大学の教育等に関する実態調査 2016年度状況調査（抜粋）
- 資料 4 第三者機関による入学意向アンケート調査報告書
- 資料 5 第三者機関による採用意向アンケート調査報告書
- 資料 6 近畿地区看護系大学院博士後期課程学生納付金
- 資料 7 看護職の人材育成に関する要望書（抜粋）

私立大学院 看護学研究科 博士課程及び博士後期課程 入学志願動向

年度	区分	集計	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	合格率	歩留率	入学定員
		研究科数	A	B	C	D	E	B/A	D/C	E/D	充足率
											E/A
平成30 (2018) 年度	大学院全体	841	8,459	5,488	5,392	4,670	4,496	0.65	86.61	96.27	53.15
	看護学研究科	25	109	136	-	-	109	1.25	-	-	100.00
	看護学研究科を除く大学院	816	8,350	5,352	-	-	4,387	0.64	-	-	52.54
平成29 (2017) 年度	大学院全体	834	8,419	5,313	5,239	4,537	4,370	0.63	86.60	96.32	51.91
	看護学研究科	22	98	134	-	-	104	1.37	-	-	106.12
	看護学研究科を除く大学院	812	8,321	5,179	-	-	4,266	0.62	-	-	51.27
平成28 (2016) 年度	大学院全体	829	8,436	5,368	5,273	4,577	4,397	0.64	86.80	96.07	52.12
	看護学研究科	20	92	111	-	-	86	1.21	-	-	93.48
	看護学研究科を除く大学院	809	8,344	5,257	-	-	4,311	0.63	-	-	51.67
平成27 (2015) 年度	大学院全体	824	8,387	5,602	5,506	4,547	4,366	0.67	82.58	96.02	52.06
	看護学研究科	14	69	117	-	-	79	1.70	-	-	114.49
	看護学研究科を除く大学院	810	8,318	5,485	-	-	4,287	0.66	-	-	51.54
平成26 (2014) 年度	大学院全体	805	8,207	5,772	5,678	4,572	4,394	0.70	80.52	96.11	53.54
	看護学研究科	13	63	76	-	-	54	1.21	-	-	85.71
	看護学研究科を除く大学院	792	8,144	5,696	-	-	4,340	0.70	-	-	53.29

出典「私立大学・短期大学入学志願動向」平成26年度～平成30年度(日本私立学校振興・共済事業団)

	区分	集計	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	合格率	歩留率	入学定員
		研究科数	A	B	C	D	E	B/A	D/C	E/D	充足率
											E/A
5か年の 平均	大学院全研究科の平均	826.6	8,381.6	5,508.6	5,417.6	4,580.6	4,404.6	0.7	84.6	96.2	52.6
	看護学研究科の平均	18.8	86.2	114.8	-	-	86.4	1.3	-	-	100.2
	看護学研究科を除く大学院	807.8	8,295.4	5,393.8	-	-	4,318.2	0.7	-	-	52.1

## 近畿地区 看護系大学院 博士後期課程 入学定員充足状況

No.	所在	設置者	大学院	研究科・専攻		入学定員	2018年度 入学者数	入学定員 充足率
1	京都	国立	京都大学大学院	医学研究科	人間健康科学系専攻	15	23	153.3%
2	大阪	国立	大阪大学大学院	医学系研究科	保健学専攻	23	30	130.4%
3	兵庫	国立	神戸大学大学院	保健学研究科	保健学専攻	25	29	116.0%
4	京都	公立	京都府立医科大学大学院	保健看護研究科	保健看護専攻	3	4	133.3%
5	大阪	公立	大阪府立大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	5	6	120.0%
6	大阪	公立	大阪市立大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	1	33.3%
7	兵庫	公立	兵庫県立大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	4	1	25.0%
8	兵庫	公立	神戸市看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	0	0.0%
9	和歌山	公立	和歌山県立医科大学	保健看護学研究科	保健看護学専攻	3	3	100.0%
10	京都	私立	京都橘大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	4	133.3%
11	大阪	私立	大阪医科大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	8	266.7%
12	大阪	私立	関西医科大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	5	7	140.0%
13	兵庫	私立	関西福祉大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	2	66.7%
14	兵庫	私立	武庫川女子大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	5	166.7%
15	兵庫	私立	甲南女子大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	5	166.7%
私立の大学院計 ※入学定員充足率は6校の平均						20	31	156.7%
公立・私立の大学院計 ※入学定員充足率は12校の平均						41	46	112.6%
京都府所在の大学院計 ※入学定員充足率は3校の平均						21	31	140.0%
合 計 ※入学定員充足率は15校の平均						104	128	116.8%

※各大学のホームページ等に掲載されたデータに基づき作成(平成30年度現在)

※京都大学、大阪大学、神戸大学については、入学定員、入学者数ともに記載の専攻全体の人数

『看護系大学の教育等に関する実態調査』  
2016 年度状況調査

## 1. 看護系学部・学科について

表1-1. 卒業生

[N=250]

	出している	出していない	合計
国立大学	43 (100.0%)	0 (0.0%)	43 (100.0%)
公立大学	46 (97.9%)	1 (2.1%)	47 (100.0%)
私立大学	118 (73.8%)	42 (26.3%)	160 (100.0%)
全体	207 (82.8%)	43 (17.2%)	250 (100.0%)

前年度よりも11校多い、250校から回答が得られた。卒業生を出している大学は207校（82.8%）であり、設置主体別にみると、国立大学は全て完成年度を迎えており、公立大学が1校、私立大学が42校、完成年次を迎えていなかった。

表1-2. 編入制度の有無〔複数回答可〕

[N=250]

	3年次編入 制度がある	2年次学士編入 制度がある	ない	合計 (回答校数)
国立大学	34 (79.1%)	0 (0.0%)	9 (20.9%)	43 (100.0%)
公立大学	21 (44.7%)	2 (4.3%)	25 (53.2%)	47 (100.0%)
私立大学	27 (17.8%)	5 (3.3%)	121 (79.6%)	152 (100.0%)
全体	82 (33.9%)	7 (2.9%)	155 (64.0%)	242 (100.0%)

編入制度は89校（36.8%）で実施されていた。2013年から実数に大きな変化はなく93～95校であり、大学の増加に伴い全体に占める割合がゆるやかに減少傾向となっていたが、今年は実数でも90校を切る減少がみられた。

表1-3. 入学者の出身学校種別

[N=82]

	国立大学 (回答校数=34)	公立大学 (回答校数=21)	私立大学 (回答校数=27)	全体 (回答校数=82)
専修学校卒業者数	130	76	41	247
短期大学卒業者数	17	17	13	47
合計	147	93	54	294

編入生の総数は、昨年よりも14名増えたものの、2013年の412名、2014の349名年と比べると減少傾向にあった。編入制度による入学者の出身学校は、専修学校卒業者が大半を占め247名（84.0%）であった。

表1-4. 所属する全教員数

[N=250]

	国立大学 (回答校数=43)		公立大学 (回答校数=47)		私立大学 (回答校数=160)		全体 (回答校数=250)	
	看護教員	それ以外	看護教員	それ以外	看護教員	それ以外	看護教員	それ以外
教授	340	186	398	180	1,172	375	1,910	741
准教授	227	53	365	85	912	104	1,504	242
講師	154	20	335	39	1,028	56	1,517	115
助教	464	80	491	39	1,164	20	2,119	139
助手	30	1	127	2	524	11	681	14
その他	8	2	19	0	11	3	38	5
合計	1,223	342	1,735	345	4,811	569	7,769	1,256
未充足数	16	2	80	6	131	2	227	10

※調査票に入力された実数を示しているため、合計数が上記の表1-5、表1-6と致していない箇所あり。

専任教員は、看護教員が7,769名、それ以外の教員が1,256名、合計は9,025名であり顕著な増加傾向にある。

看護教員の職位別割合をみると、助教（27.3%）、教授（24.6%）、准教授（19.4%）、講師（19.5%）、助手（8.8%）の順に多く、昨年と概ね同様であった。設置主体別の違いでは、助教では国立大学での割合が37.9%と高く、助手では私立大学が10.9%と高い割合で配置されていた。1校あたりの平均教員数は、看護教員が31.1名、それ以外の教員が5.0名であり、看護教員数を設置主体別でみると、公立大学（36.9名）、私立大学（30.1名）、国立大学（28.4名）の順に多く、昨年度比では、それぞれの教員数は横ばいであった。看護教員の未充足数は227名（1校あたり0.9名不足）であり、2013年度から2015年度にかけて不足人数が増加の一途を辿っていた\*が、2016年度は2013年度並に解消された。設置主体別の未充足数は、国立大学では1校あたり1.3名から0.4名に激減し、公立大学と私立大学では、2015年度よりも減り2014年度と同様であった。

※ 2015年度は311名（1校あたり1.3名不足）、2014年度は242名（1.1名不足）、2013年度は145名（1校あたり0.8名不足）

表1-5. 年齢構成別の教員数

[N=250]

年齢構成	国立大学 (回答校数=43)	公立大学 (回答校数=47)	私立大学 (回答校数=160)	全体 (回答校数=250)
29歳以下	33	44	111	188
30～34歳	120	166	336	622
35～39歳	179	237	511	927
40～44歳	212	268	754	1,234
45～49歳	202	321	806	1,329
50～54歳	201	305	886	1,392
55～59歳	157	231	624	1,012
60～64歳	118	140	417	675
65歳以上	4	23	366	393
合計	1,226	1,735	4,811	7,772

教員を年齢別にみると、50歳代（30.9%）、40歳代（33.0%）、30歳代（19.9%）、60歳以上（13.8%）、20歳代（2.4%）の順で多く、40歳代と50歳代が逆転した。設置主体別に比較すると、国立大学、公立大学では50歳以上がそれぞれ39.2%、40.3%、60歳以上が10.0%、9.4%を占めるのに対し、私立大学では50歳以上が47.7%、60歳以上は16.3%と年齢層が高くなる傾向がみられた。とくに、私立大学では65歳以上が393名（5.1%）と昨年度の290名（6.6%）より割合は下がったものの実数が増え、国立大学の4名（0.3%）、公立大学の23名（1.3%）よりも依然として高い値となった。



**表1-6. 最終修得学位名称別の教員数**

[N=250]

学位名称	国立大学 (回答校数=43)					公立大学 (回答校数=47)				
	学士	修士	博士	学位なし	合計	学士	修士	博士	学位なし	合計
看護学	54	344	220		618	126	687	292		1,105
保健学	2	100	162		264	0	111	107		218
医学	1	9	165		175	4	6	77		87
教育学	1	14	13		28	2	49	11		62
学術	0	5	21		26	2	19	15		36
その他	4	59	42		105	12	129	61		202
合計	62	531	623	10	1,226	146	1,001	563	25	1,735

学位名称	私立大学 (回答校数=160)					全体 (回答校数=250)				
	学士	修士	博士	学位なし	合計	学士	修士	博士	学位なし	合計
看護学	252	1,720	580		2,552	432	2,751	1,092		4,275
保健学	6	277	200		483	8	488	469		965
医学	4	23	223		250	9	38	465		512
教育学	20	158	27		205	23	221	51		295
学術	5	130	76		211	7	154	112		273
その他	102	647	199		948	118	835	302		1,255
合計	389	2,955	1,305	162	4,811	597	4,487	2,491	197	7,772

教員の最終修得学位は、博士が2,491名（32.1%）、修士が4,487名（57.7%）、学士597名（7.7%）、学位なし197名（2.5%）で昨年度とほぼ同じであった。設置主体別で見ると、国立大学では博士が50.8%、修士が43.3%と、修士以上の学位修得者が全体の9割以上を占めた。また、公立大学では、博士が32.4%、修士が57.7%、私立大学では、博士が27.1%、修士が61.4%であった。学位の名称別で見ると、看護学が最も多く、それぞれに占める割合は、学士（72.4%）、修士（61.3%）、博士（43.8%）であった。博士の学位は、看護学（43.3%）に次いで保健学（18.8%）、医学（18.7%）の順であり、昨年度に保健学博士と医学博士の割合が逆転したままであった。いずれの学位も持たない教員は、国立大学で10名（0.8%）、公立大学で25名（1.4%）、私立大学で162名（3.4%）であり、私立大学で多いものの、全体として減少傾向が続いている。

同志社女子大学大学院

「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」

設置に係るニーズアセスメント調査

報告書

【学生確保の見通し調査(入学意向についてのアンケート調査) 結果】

# 目 次

## 学生確保の見通し調査（入学意向についてのアンケート調査）結果

1. 入学意向についてのアンケート調査 実施概要	3
2. 入学意向についてのアンケート調査 集計結果	4
3. 学生確保の見通しについて（入学意向についてのアンケート調査 結果ポイント）	9
【別添資料】入学意向についてのアンケート調査 用紙	13

## 1. 入学意向についてのアンケート調査 実施概要

同志社女子大学が 2020 年度に設置予定の同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」における学生確保の見通しを測定するために、入学意向についてのアンケート調査（無記名式）を実施した。計 138 件のアンケート調査用紙を回収し集計した結果、**予定する入学定員 3 名を大きく上回る計 14 人が「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」を「受験したい」とし、そのうち 7 人が「入学したい」、7 人が「状況によって入学を検討する」と回答した。**

調査対象	同志社女子大学看護学部の実習先を含む、京都府をはじめ大阪府・滋賀県・奈良県の病院、高齢者施設（介護老人保健施設、特別養護老人ホーム）、地方自治体、看護学部・大学院修士課程までを有する大学の合計 373 箇所に勤務する看護職者・大学教員・大学院生を対象とした。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の基本情報（性別、居住地、勤務先、勤務年数、保有資格、学歴）</li> <li>・同志社女子大学「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」の受験・入学意向</li> </ul> （全 12 問で主に選択肢式。一部記述を含む）
調査時期	2018 年 10 月～12 月
調査方法	調査対象先の看護部長又は人事・採用担当者宛にアンケート調査用紙を郵送し、現職看護職者等へのアンケート調査用紙・返送用封筒の配布を依頼。看護職者・大学教員・大学院生等が回答の上、直接返送する形とした。
回収件数	138 件（性別回答欄で「女性」とした場合のみ有効回答とした結果）

→ 配布した「入学意向についてのアンケート調査 用紙」は 13 ページ【別添資料】参照。

## 2. 入学意向についてのアンケート調査 集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

**問1** あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 女性	138	100.0%
2. 男性	0	0.0%
(無回答)	0	0.0%
合計	138	100.0%

※ 入学対象者は女性のみのため、「2. 男性」もしくは無回答だったものは、あらかじめ集計対象から除外した。

**問2** あなたが現在、お住まいの府県をお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 京都府	77	55.8%
2. 奈良県	15	10.9%
3. 大阪府	25	18.1%
4. 滋賀県	16	11.6%
5. 兵庫県	5	3.6%
6. 和歌山県	0	0.0%
7. その他	0	0.0%
(無回答)	0	0.0%
合計	138	100.0%

**問3** あなたの現在の所属先（勤務先・通学先）・状況についてお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 病院	83	60.1%
2. 介護保険関連施設	4	2.9%
3. 訪問看護ステーション	23	16.7%
4. 行政(保健センター・保健所)	14	10.1%
5. 大学教員(看護系)	11	8.0%
6. 大学院生	2	1.4%
7. その他	1	0.7%
(無回答)	0	0.0%
合計	138	100.0%

**問4** あなたが保有している免許・資格をお答えください。現在学生の方は取得予定のものをお答えください。（あてはまるものすべてにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 看護師	137	99.3%
2. 保健師	30	21.7%
3. 助産師	16	11.6%
4. その他	13	9.4%

※ 問4は複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 各構成比 = 回答数 ÷ 138人（全回答者数）

**問5** あなたの看護職者としての累計勤務年数、加えて看護教員の方は教員としての累計勤務年数をお答えください。（それぞれ、あてはまるもの1つにチェックしてください）

**【看護職者としての累計勤務年数】**

回答内容により以下に分類	回答数	構成比
1. 2年未満	3	2.2%
2. 2～4年	6	4.3%
3. 5～9年	9	6.5%
4. 10～14年	24	17.4%
5. 15～19年	25	18.1%
6. 20年以上	69	50.0%
7. 経験なし (無回答)	2 0	1.4% 0.0%
合計	138	100.0%

**【看護教員としての累計勤務年数】**

回答内容により以下に分類	回答数	構成比
1. 2年未満	2	1.4%
2. 2～4年	11	8.0%
3. 5～9年	8	5.8%
4. 10～14年	6	4.3%
5. 15～19年	0	0.0%
6. 20年以上	2	1.4%
7. 経験なし (無回答)	63 46	45.7% 33.3%
合計	138	100.0%

**問6** あなたの最終学歴をお答えください。現在学生の方は予定のものをお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 専門学校卒	65	47.1%
2. 短期大学卒	7	5.1%
3. 高校看護科卒	1	0.7%
4. 大学卒	20	14.5%
5. 大学院修了 (無回答)	44 1	31.9% 0.7%
合計	138	100.0%

問7は、問6で最終学歴を「大学院修了」とした44人に対し、同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」概要を見た上で回答を求めた。

**問7** あなたは同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 受験したい	14	31.8%
2. 受験しない	30	68.2%
(無回答)	0	0.0%
合計	44	100.0%

次の問8・9は、問7で「受験したい」とした14人に回答を求めた。

**問8** あなたは同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 入学したい	7	50.0%
2. 状況によって入学を検討する	7	50.0%
(無回答)	0	0.0%
合計	14	100.0%

**問9** あなたが同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」に「入学したい」または「状況によって入学を検討する」とされた理由をお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので	6	42.9%
2. 博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたいので	6	42.9%
3. 将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので	2	14.3%
4. 将来、教育者、研究者になりたいので	0	0.0%
5. その他	0	0.0%
(無回答)	0	0.0%
合計	14	100.0%

次の問10は、問6で「専門学校卒」「短期大学卒」「高校看護科卒」「大学卒」とした計93人に回答を求めた。

**問10** あなたは将来、看護系大学院に進学したいと思いますか。（あてはまるもの1つにチェックをしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 進学したい	13	14.0%
2. 進学しない	23	24.7%
3. 現時点ではわからない	25	26.9%
(無回答)	32	34.4%
合計	93	100.0%

以下は、問 10 で「（看護系大学院に）進学したい」とした計 13 人に回答を求めた。

同志社女子大学大学院 看護学研究科を進学先として検討されますか。

選択項目	回答数	構成比
1. 第一志望にしたい	0	0.0%
2. 選択肢の一つにしたい	13	100.0%
3. 他大学院へ行きたい	0	0.0%
(無回答)	0	0.0%
合計	13	100.0%

次の問 11 は、問 7 で「受験しない」とした 30 人に回答を求めた。

**問 11** あなたが同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」を「受験しない」とされた理由をお答えください。（あてはまるもの 1 つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 博士学位を取得する必要性を感じないため	2	6.7%
2. 博士課程(後期)で研究を行う必要性を感じないため	1	3.3%
3. 同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」に魅力を感じないため	3	10.0%
4. 経済的、金銭的理由	4	13.3%
5. 仕事が忙しいため	4	13.3%
6. 家庭の事情	1	3.3%
7. その他	7	23.3%
(無回答)	8	26.7%
合計	30	100.0%

次の問 12 は、問 10 で「進学しない」「現時点ではわからない」とした 48 人に回答を求めた。

**問 12** よろしければ、どのような条件が整えば看護系大学院への進学を検討されるかご記入ください。

※36 人から回答を得た。原文通り。順不同。

1.	金銭面や家庭との折り合いがつけば考慮。
2.	・現職が忙しい ・学んだあと自分が何かしたいか明確でない ・研究したい、探求したいというテーマが今の自分の中にない
3.	・自分のすすみたい道がはっきりすれば。 ・カリキュラム(時間的なことも含め)により、現在の仕事との両立を考える必要があり、整えば(休職制度はない)。
4.	臨床経験を経ての大学院生活情報や大学院卒業後に活躍している情報があれば受験を検討するかもしれない。
5.	卒業後、仕事をはっきりできる状況があれば考える。
6.	専門をきわめる内容であれば考える。
7.	経済的な理由、家庭の事情、魅力を感じた時
8.	費用 通学のしやすさ 指導教員
9.	他の仕事に興味がある為、条件が整うという問題ではありません。
10.	子供の学費が多額なため。



11.	働きながら(無理なく)通える。
12.	通学に対する休職や休暇が補償され、安価であるか費用を職場が援助してくれる環境があれば希望する。
13.	看護学専攻のカリキュラム内容や指導教授と、自分の研究テーマが一致すれば、受験を考えたいと思います。
14.	時間的余裕
15.	学費、通学の便、家庭の状況。
16.	仕事と両立できるならば。
17.	保助看すべてもってるので、新しく欲しい資格や学歴はない。子どもも小さいので、研究会のような単発なら学習したいが、通うのは仕事をやめるわけにはいかないので難しい。
18.	働きながら学べる環境を整備してもらいたい。
19.	現在勤務中のため、退職後進学も検討したい。専門学校卒のため、大学に対してあこがれがあります。
20.	現在の仕事にどのように生かせるか具体的に理解ができれば。
21.	お金があれば考えるかもしれません。
22.	金銭面(家庭があるため) 仕事をしているので時間等が確保できるかわかりません。
23.	進学したことにより現職に生かすことができれば進学を考えます。
24.	お金(生活費)が整えば考えられる。
25.	仕事、経済的な調整が可能なら考える。
26.	大学院は「どんな教授のもとで学ぶか」が重要なポイントとなります。研究だけでなく教授の人柄や教育者として魅力的な方がおられる大学院であれば候補になります。
27.	時間と金額が整えば行ってみたいと思います。進学にかかる時間も…。
28.	研究を指導する教員の質
29.	無理なく仕事と両立できる条件があれば。
30.	経済面、時間面が確保できれば…。現在歳もとっているので新たに進学する気がないが、看護学校を卒業してストレートに大学院に行く環境なら行く気になっていたかもしれません。
31.	今の仕事のキャリアと金銭的な部分の保障があれば考える余地が生まれると思います。
32.	今の自分に必要な資格でないが、今後状況として博士学位の取得が必要となれば、進学を考えると。もう少し詳しい情報があれば考える。
33.	収入と学費支出が担保されれば
34.	病院(現在働いている)からの補助金があれば進学を検討する。
35.	臨床現場での役割があると思っているから。
36.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近場(片道1時間以内)で、車で行ける場所にあること。</li> <li>・仕事が落ち着くこと。</li> <li>・家庭が落ち着くこと。</li> </ul>

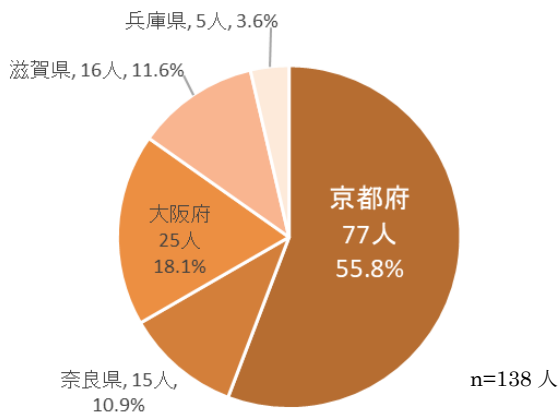
### 3. 学生確保の見通しについて(入学意向についてのアンケート調査 結果ポイント)

**Point 1** 回答者は地元・京都府在住が過半数で、6割が病院所属の他、訪看・行政・大学など。看護職者としては10年以上のベテランが8割以上を占めるほか、看護教員経験者が2割。

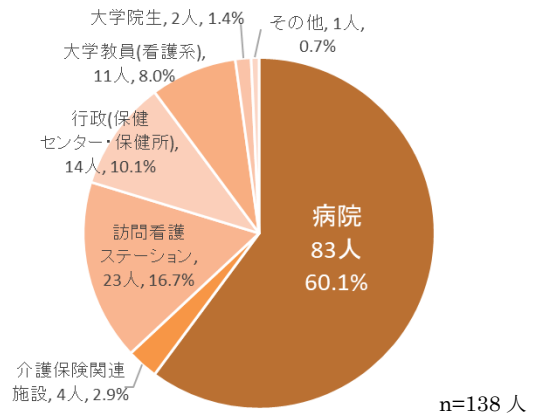
入学意向についてのアンケート調査は、返送された調査用紙のうち、あらかじめ入学対象となる女性のみを抽出した（性別回答欄に「男性」とあるか、無回答の場合は除外）。その結果、有効回答138人分について集計を行った。138人を居住地別にみると「京都府」が77人（全体の55.8%）で最も多かった。また、残り61人（同44.2%）も隣接する大阪府、奈良県、滋賀県、兵庫県に在住者であった。現在の所属先（身分を含む）は「病院」が83人（同60.1%）で最も多く、次いで「訪問看護ステーション」23人（同16.7%）、「行政（保健センター・保健所）」14人（同10.1%）、「大学教員（看護系）」11人（同8.0%）であった。看護職者としての累計勤務年数別は「20年以上」が69人（同50.0%）で最も多く、「10～14年」「15～19年」を含めると10年以上は118人（同85.5%）であった。看護教員としての累計勤務年数別は「経験なし」が63人（同45.7%）で最も多く、無回答も46人（33.3%）いたものの、勤務年数を示した回答者は計29人（同21.0%）いた（※注：ここでの「看護教員」は看護専門学校の教員経験者も含むと推察される）。

【グラフ】回答者の属性

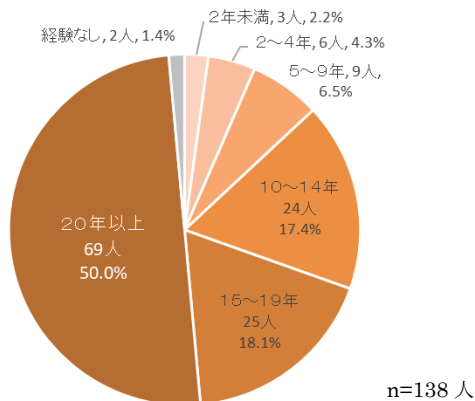
居住地 <問2結果より>



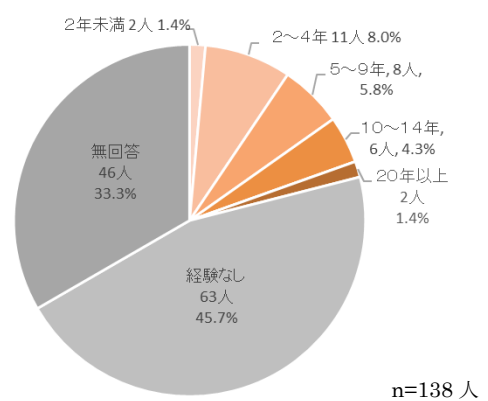
所属先(勤務先・通学先) <問3結果より>



看護職者としての累計勤務年数 <問5結果より>



看護教員としての累計勤務年数 <問5結果より>

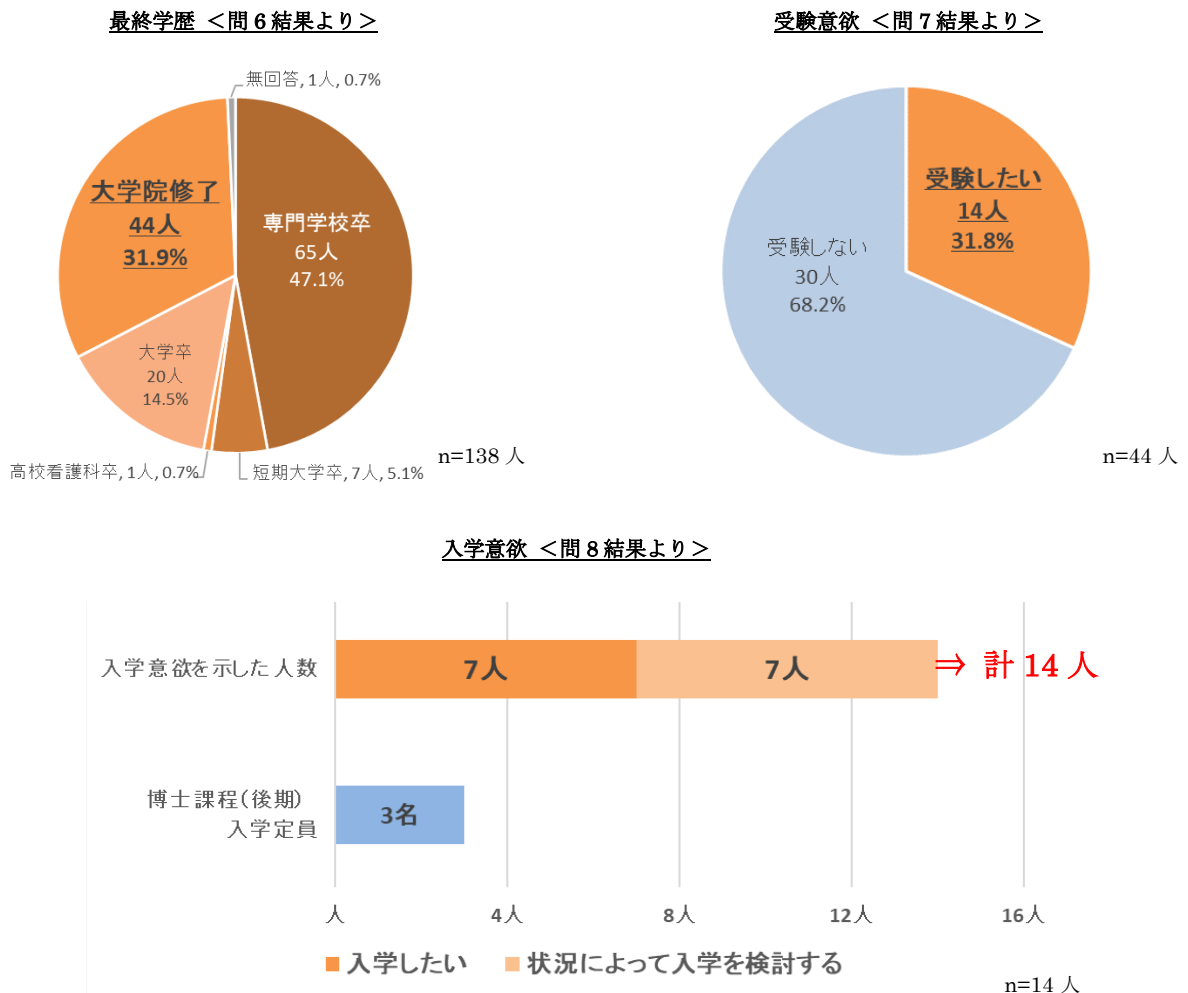


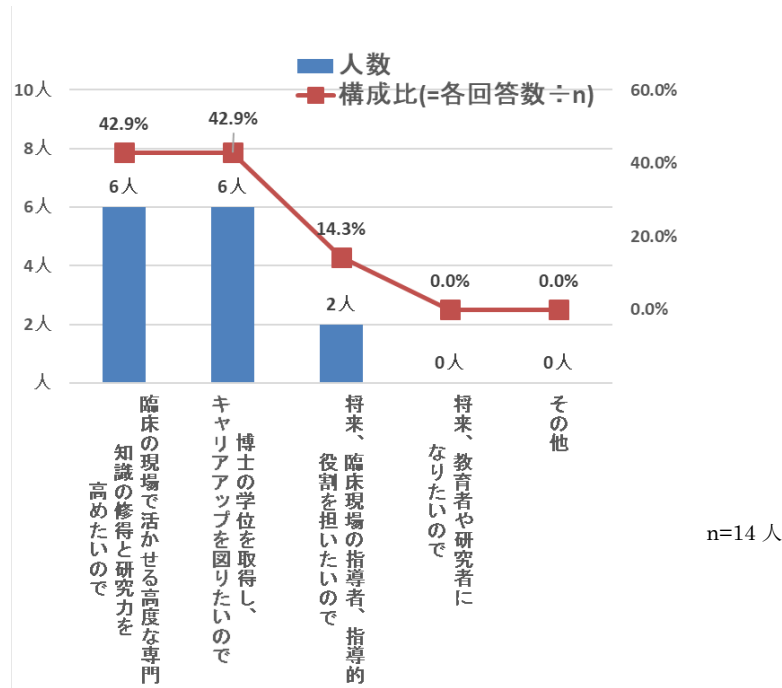
**Point 2** 大学院修了者44人のうち、14人が同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」に受験意欲を示し、そのうち7人が強い入学意欲。

アンケート調査の回答を得た138人のうち学歴面で出願資格を満たす「大学院修了」としたのは44人であった。それらの44人に対し、同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」の概要を提示した上で受験・入学意欲について回答を求めた。結果、14人が「受験したい」とし、さらにその上で7人が「入学したい」、他7人が「状況によって入学を検討する」と答えた。「入学したい」とした7人で、「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」が予定する入学定員3名を大きく上回る結果となった。

「受験したい」とした14人がその理由として挙げたのは、「臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので」「博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたいので」が各6人、「将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので」が2人であった。

【グラフ】同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」への受験・入学意欲等





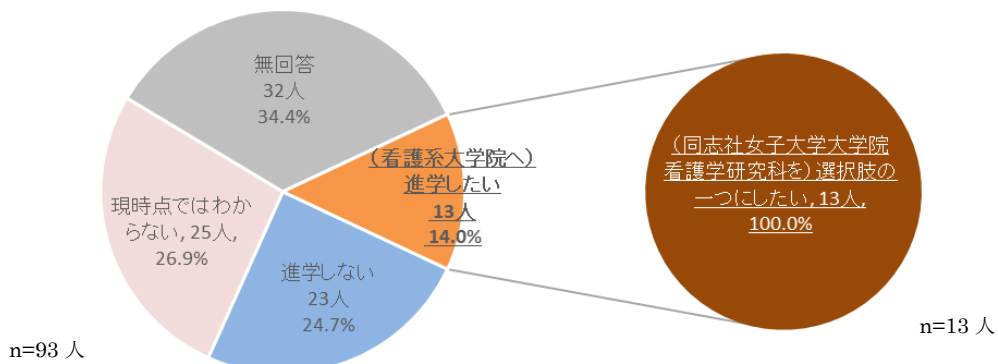
**Point 3** 現時点では出願資格をもたない専門学校卒・短期大学卒・高校看護科卒・大学卒の看護職者等においても、潜在的な進学希望者が一定数存在。

現時点では学歴面で出願資格を満たさない93人について、将来的な看護系大学院への進学希望について回答を求めたところ、13人が「進学したい」とし、その全員が進学左記として同志社女子大学大学院看護学研究科を選択肢の一つにしたいとした。

このように同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」に対しては、将来にわたって潜在的な進学需要があることがうかがえる。

【グラフ】現時点で出願資格を満たさない看護職者等の将来的な看護系大学院への進学意向

将来的な看護大学院の可能性 <問10結果より>





**【別添資料】**

「入学意向についてのアンケート調査用紙」









# 同志社女子大学大学院 看護学研究科看護学専攻 博士課程（後期）

※仮称・設置構想中

- 設置年月：2020年4月(予定) ● 入学定員：3名(収容定員9名) ※女子のみ
- 修業年限：3年 ※長期履修制度を導入予定 ● 学位：博士(看護学)
- 開設場所：同志社女子大学 京田辺キャンパス(京都府京田辺市興戸)

## 教育目的

自立した看護学の研究活動を行うのに必要な高度な研究力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを基本的な理念として、看護実践に活用可能な理論の構築や方法の開発を目指し、科学的な思考に基づいた高度な研究力と実践力、教育力を有した女性を育成する。これらの人材を社会に輩出することで、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与することを目的とする。

## 教育研究の特色

(1) 本課程における教育・研究において、以下の人材を育成します。

- 看護現象を探究できる幅広い視野と深い学識を基盤とした教育研究力を看護実践の場で活用し、リーダーシップを発揮しながら看護の課題解決に努めることのできる人材
- 広範かつ深い知識と理解力を有し、専門領域における看護実践の発展に貢献できる人材
- 自立した教育研究者として、実践の場での教育研究に取り組み、看護学の発展に寄与することのできる人材
- 研究課題の成果を広く社会に発信し、健康・福祉の向上に寄与することのできる人材

(2) 教育目的を達成するために、教育課程を3つの科目区分で編成します。

共通科目	看護学における新たな問題や課題を追求するための教育研究の基盤となる科目
専門科目	臨床看護学や広域看護学の視点から、自らの研究課題や研究方法を探究する科目
特別研究	個々の研究計画に基づく一連の研究過程を通して、高度で自立した研究能力を育成する科目

## 修了後の進路

- 看護系大学等の教員、研究員
- 医療施設や行政等の看護職

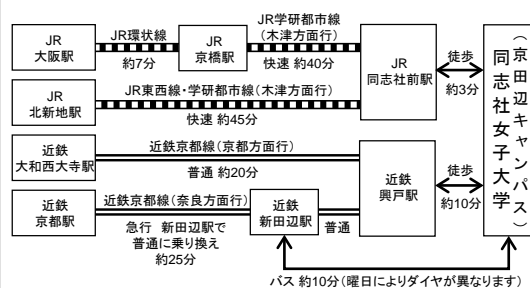
## 学費（他大学を含む）

(円)

	入学金	授業料等	初年次納付金(合計)
同志社女子大学大学院 看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中	180,000	600,000	780,000
<small>&lt;参考:2018年度現在&gt;</small>			
京都橋大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/京都市山科区	200,000	630,000	830,000
関西医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/大阪府枚方市	200,000	600,000	800,000
大阪医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/大阪府高槻市	200,000	580,000	780,000
武庫川女子大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/兵庫県西宮市	280,000	900,000	1,180,000

※いずれも諸会費等を含みません。また、長期履修制度を利用しない場合の金額となります。  
※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報(2018年9月時点)に基づきます。

## アクセス



### 【各駅からのアクセス】

- JR 同志社前駅より  
改札を出て横断歩道を渡り、正門まで徒歩約3分。
- 近鉄 興戸駅より  
改札を出て線路沿いを進み、歩道橋を渡り、正門まで徒歩約10分。



同志社女子大学大学院

「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」

設置に係るニーズアセスメント調査

報告書

【人材需要の見通し調査(採用意向についてのアンケート調査) 結果】

# 目 次

## 人材需要の見通し調査（採用意向についてのアンケート調査）結果

1. 採用意向についてのアンケート調査 実施概要	3
2. 採用意向についてのアンケート調査 集計結果	4
3. 人材需要の見通しについて（採用意向についてのアンケート調査 結果ポイント）	9
【別添資料】採用意向についてのアンケート調査 用紙	13

## 1. 採用意向についてのアンケート調査 実施概要

同志社女子大学が2020年度に設置予定の同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」における人材需要の見通しを測定するために、保健・医療機関、福祉施設、看護系大学・大学院を対象に採用意向についてのアンケート調査（無記名式）を実施した。計117件のアンケート調査用紙を回収し集計した結果、**27箇所が「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」を修了した人材を「採用したい」と回答し、その上で予定する入学定員3名を大きく上回る計39人の採用意向を示した。**

調査対象	同志社女子大学看護学部の実習先を含む、京都府をはじめ大阪府・滋賀県・奈良県の病院、高齢者施設（介護老人保健施設、特別養護老人ホーム）、地方自治体、看護学部・大学院修士課程までを有する大学の合計373箇所を対象とした。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答機関・施設の基本情報（所在地、種類、勤務する看護職者・看護教員の人数、大学院博士後期課程修了の看護職者・看護教員の勤務の有無）</li> <li>・ 同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」の必要性・採用意向、進学推奨</li> </ul> （全8問で主に選択肢式。一部記述を含む）
調査時期	2018年10月～12月
調査方法	調査対象機関・施設の看護部長又は人事・採用担当者宛にアンケート調査用紙を郵送し、回答・返送を依頼した。
回収件数	117件（配布373件に対し、回収率31.4%）

→ 配布した「採用意向についてのアンケート調査 用紙」は13ページ【別添資料】参照。

## 2. 採用意向についてのアンケート調査 集計結果

※「構成比」(%) はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

**問1** 貴機関・貴施設の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 京都府	65	55.6%
2. 奈良県	11	9.4%
3. 大阪府	24	20.5%
4. 滋賀県	16	13.7%
5. 兵庫県	0	0.0%
6. 和歌山県	0	0.0%
7. その他	0	0.0%
(無回答)	1	0.9%
合計	117	100.0%

**問2** 貴機関・貴施設の種別をお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 病院	55	47.0%
2. 介護保険関連施設	9	7.7%
3. 訪問看護ステーション	10	8.5%
4. 地方自治体	36	30.8%
5. 大学	7	6.0%
6. その他	0	0.0%
(無回答)	0	0.0%
合計	117	100.0%

**問3** 貴機関・貴施設に勤務されている看護職者および看護教員の人数をお答えください。（あてはまる数字をご記入ください）

※下記の人数区分別に分類集計を行った。

**【看護師】**

回答内容により以下に分類	回答数	構成比
1～20人	37	31.6%
21～50人	4	3.4%
51～100人	9	7.7%
101～200人	17	14.5%
201～300人	9	7.7%
301人～	19	16.2%
0または（無回答）	22	18.8%
合計	117	100.0%

【保健師】

回答内容により以下に分類	回答数	構成比
1人	6	5.1%
2～5人	9	7.7%
6～10人	5	4.3%
11～20人	14	12.0%
21～50人	15	12.8%
51人～	3	2.6%
0または（無回答）	65	55.6%
合計	117	100.0%

【助産師】

回答内容により以下に分類	回答数	構成比
1人	2	1.7%
2～5人	3	2.6%
6～10人	1	0.9%
11～20人	6	5.1%
21～50人	13	11.1%
51人～	2	1.7%
0または（無回答）	90	76.9%
合計	117	100.0%

【看護教員】

回答内容により以下に分類	回答数	構成比
1人	1	0.9%
2～5人	2	1.7%
6～10人	2	1.7%
11～20人	2	1.7%
21～30人	3	2.6%
31～40人	4	3.4%
0または（無回答）	103	88.0%
合計	117	100.0%

問4 貴機関・貴施設における、大学院博士後期課程修了の看護職者・看護教員の勤務の有無についてお答えください。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 勤務している	20	17.1%
2. 勤務していない	70	59.8%
3. わからない	22	18.8%
（無回答）	5	4.3%
合計	117	100.0%



（問4で「勤務している」とした場合）ご支障なければ、現時点で勤務されている人数

回答人数	回答数	構成比
1人	4	20.0%
2人	2	10.0%
3人	2	10.0%
4人	2	10.0%
5人	1	5.0%
6人	1	5.0%
8人	1	5.0%
10人	1	5.0%
11人	1	5.0%
20人	1	5.0%
（無回答）	4	20.0%
合計	20	100.0%

問5以降は、同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」概要を見た上で回答を求めた。

問5 同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われませんか。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. とても必要である	20	17.1%
2. ある程度必要である	79	67.5%
3. あまり必要でない	13	11.1%
4. 必要でない	2	1.7%
（無回答）	3	2.6%
合計	117	100.0%

問6 貴機関・貴施設において今後、同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」が養成する人材（修了生）を採用したいと思われませんか。（あてはまるもの1つにチェックしてください）

選択項目	回答数	構成比
1. 採用したい	27	23.1%
2. 採用しない	11	9.4%
3. どちらともいえない	78	66.7%
（無回答）	1	0.9%
合計	117	100.0%

（問6で）「採用したい」の場合、よろしければ採用が可能と思われる人数をご記入ください。

回答人数	回答数	人数合計
1人	10	10人
2人	8	16人
3人	1	3人
10人	1	10人
(無回答)	7	-
合計	27	39人

**問7** 貴機関・貴施設で勤務されている看護職者・看護教員を、同志社女子大学大学院「看護学研究科 看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」で学ばせるために、進学・入学させるご意向についてお答えください。  
(あてはまるもの1つにチェックしてください)

選択項目	回答数	構成比
1. 研修制度（就学助成金）・休職制度などを利用させ、進学・入学させたい	4	3.4%
2. 現職のまま（社会人として）進学・入学させたい	9	7.7%
3. 進学・入学を推奨するが、本人の意思に任せる	42	35.9%
4. 進学・入学を推奨する予定はない	32	27.4%
5. わからない	27	23.1%
(無回答)	3	2.6%
合計	117	100.0%

**問8** 同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期)※仮称・設置構想中」に対して、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

※16箇所から回答を得た。原文通り。順不同。

1.	問題解決の行動力と幅広い視野を持つ実践家を期待します。(滋賀県 / 病院)
2.	臨床において、研究力の高い人材は極めて必要と考えています。しかしながら個としての研究でなく、リーダーシップ・教育力をもって組織全体の研究力をあげる人材を望みます。その人材を得てもただちにふさわしいポスト（職責）が組織の中にあるわけでもないので、こちらの課題はあります。ダイバシティの考えから女性研究者は求めているところです(大阪府 / 病院)
3.	臨床の智と教育の智のコラボが重要(京都府 / 病院)
4.	・働きながら学べるカリキュラムの体制 ・英語においては社会人となって学習が遠のいてしまうため、その受験については考慮していただきたい (京都府 / 病院)
5.	看護管理・倫理・教育の領域の教育を行ってほしい(京都府 / 病院)
6.	看護の専門性を高め、看護職場で教育や現場での問題解決を図れる知識・技能を持った方が各施設に勤務出来るようになれば、全体のレベルアップにつながると思います。自立して活躍出来る多くの卒業生を輩出していただきたいと思います。(京都府 / 病院)
7.	北部地域では、勤務調整が難しく、市内への通学は厳しい。どの様な形とされるのか分からないが、北部地域では学ぶ場が必要と感じている。(京都府 / 病院)
8.	修得した知識・技術を現場に還元できる人であることを期待します。(奈良県 / 病院)
9.	実践に生かせる人材を育成してほしい(京都府 / 病院)
10.	看護界のためには、とてもすばらしい事だと思います。当院は、私立中規模病院なので博士課程修了された方にとっては働きにくいのでは？と思います。(京都府 / 病院)

11.	病院においては看護マネジメント or 教育で活躍できる。できれば教育（大学や看護学校）のみでなく病院でのある程度の経験年数がほしい(京都府 / 病院)
12.	近くの大学でもあり、看護の質の向上に向け、取り組みや評価スケールの教授を受けられたら良い。倫理についての教育も(京都府 / 病院)
13.	介護保険施設において新卒の方はあまり応募がありませんが、今後就職先の選択肢の1つとなるのであればありがたいと考えます。(京都府 / 介護保健関連施設)
14.	臨床で何に取り組みたいかがみえないので回答が難しいです。臨床現場で研究力を活かしたいと思いますが、本人が臨床で何をどのように取り組みたいかそれによります。(京都府 / 病院)
15.	知識だけではなくそれを現在に生かせる職員の養成(京都府 / 訪問看護ステーション)
16.	地域の保健師として良い人材ならば採用したい(京都府 / 地方自治体)

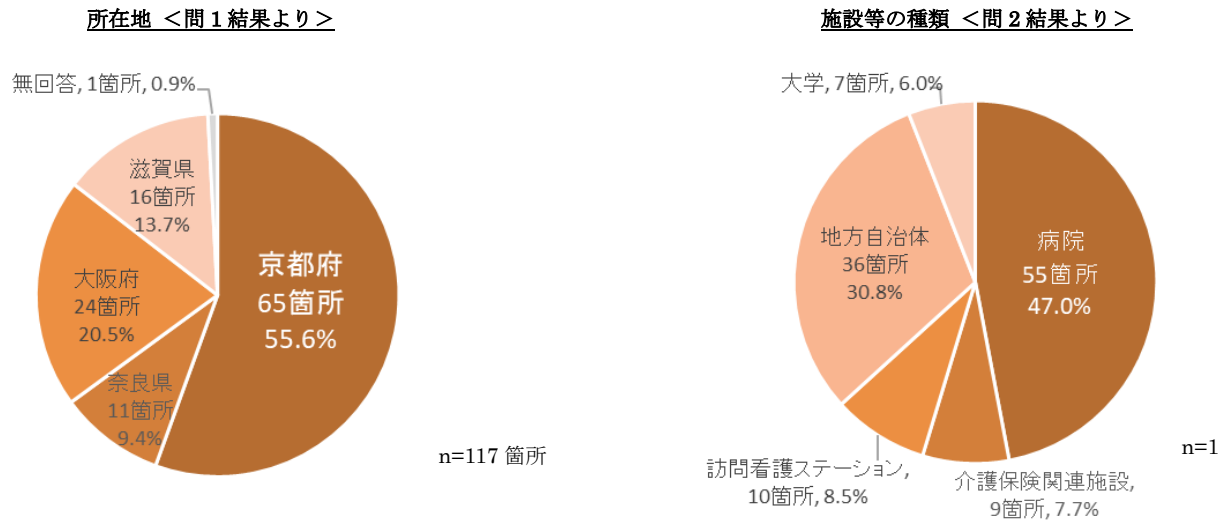
### 3. 人材需要の見通しについて(採用意向についてのアンケート調査 結果ポイント)

**Point 1** 京都府・隣接県の病院・地方自治体・介護保険施設・訪看・大学など 117 箇所が回答。  
うち 20 箇所で大学院博士後期課程を修了した看護職者・看護教員が勤務。

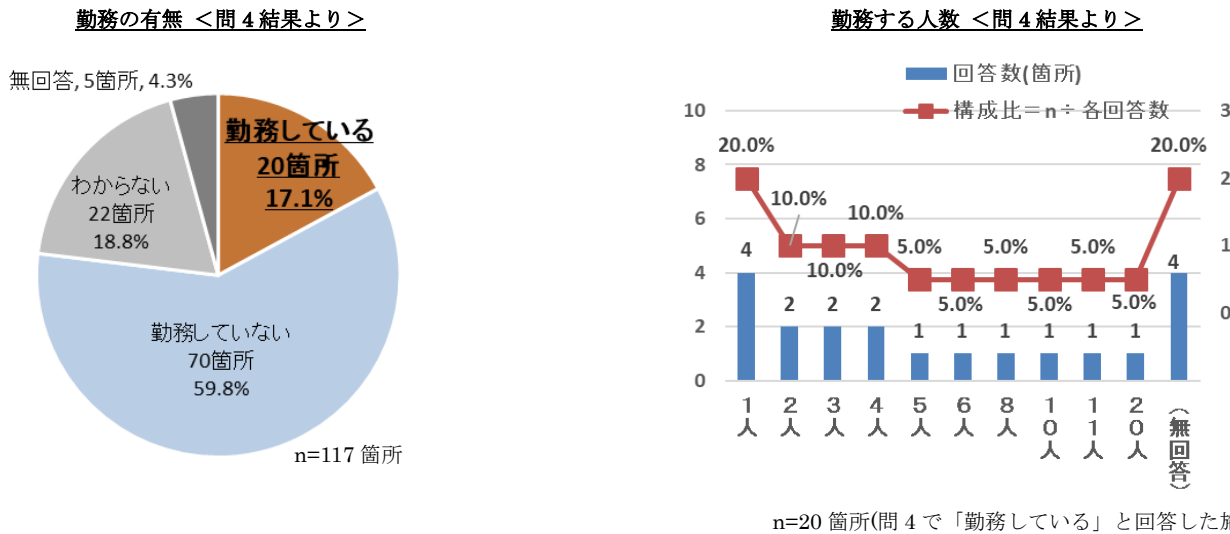
採用意向についてのアンケート調査は 117 件の返送を得て集計を行った。結果、返送元の所在地は「京都府」が 65 箇所（全体の 55.6%）で最も多かった。また、隣接する「大阪府」が 24 箇所（同 20.5%）、「滋賀県」が 16 箇所（同 13.7%）、「奈良県」が 11 箇所（同 9.4%）であった。施設種別では「病院」が 55 箇所（同 47.0%）で最も多く、以下「地方自治体」36 箇所（同 30.8%）、「訪問看護ステーション」10 箇所（同 8.5%）、「介護保険関連施設」9 箇所（同 7.7%）、「大学」7 箇所（同 6.0%）であった。

大学院博士後期課程修了の看護職者・看護教員が勤務する施設等は 20 箇所（全体の 17.1%）であった。勤務する人数は「1 名」が 4 箇所（勤務する 20 箇所の 20.0%）で最も多かったが、一方で 10 名以上が勤務する施設等も 3 箇所（同 15.0%）あった。なお、人数が最も多かったのは「20 名」であった。

【グラフ】回答施設等について



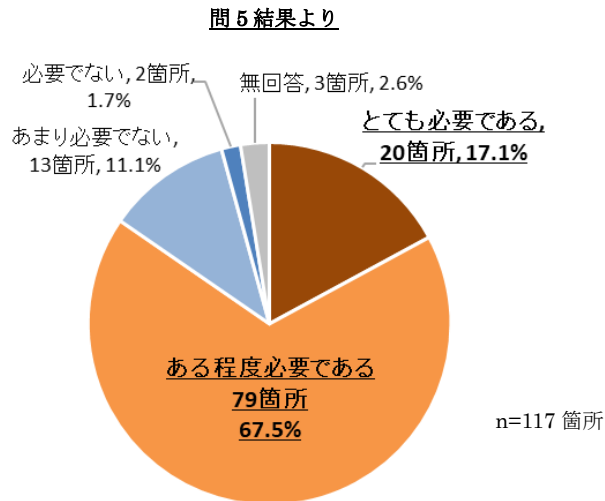
【グラフ】大学院博士後期課程の修了した看護職者・看護教員の勤務状況



**Point 2** 回答を得た 117 箇所のうち 8 割以上が同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」の養成する人材の必要性を認める。

同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」が養成する人材について、これからの社会における必要性について回答を求めた結果、「とても必要である」が 20 箇所（全体の 17.1%）、「ある程度必要である」が 79 箇所（同 67.5%）で、合計すると 99 箇所（同 84.6%）であった。全体の 8 割以上がその養成する人材の必要性を認める結果であった。

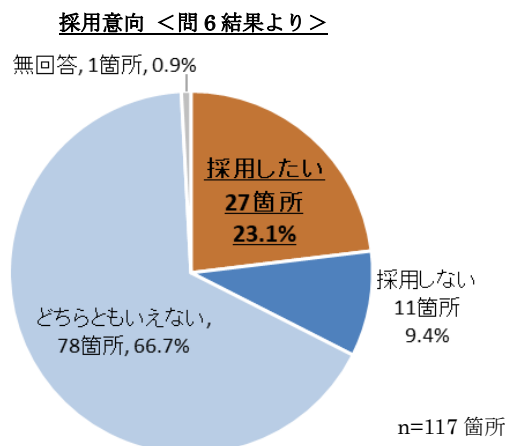
【グラフ】同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」が養成する人材の必要性



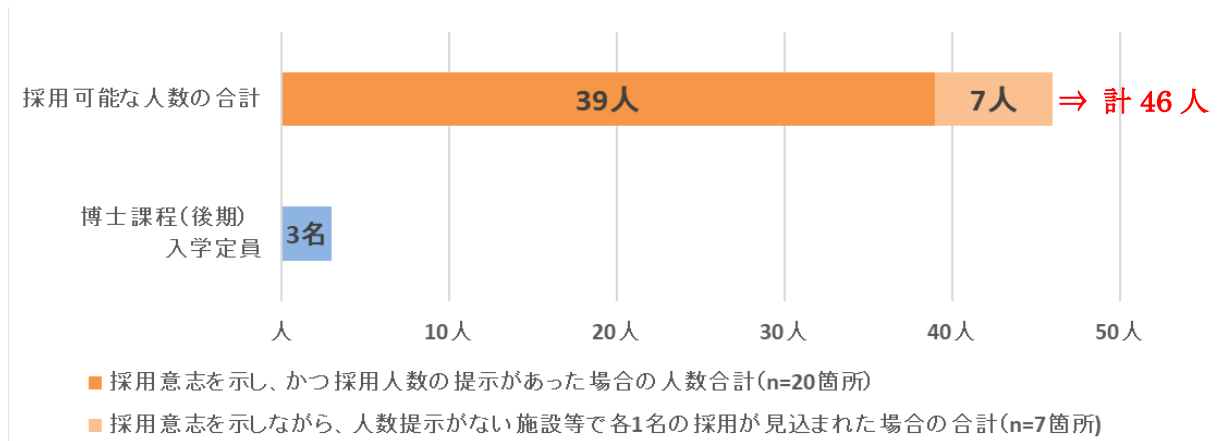
**Point 3** 同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」の修了生に対し、27 箇所が採用意向を示し、採用可能な人数として少なくとも 39 人が見込まれる。

同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」を修了した人材について、27 箇所（全体の 23.1%）が「採用したい」と回答した。そのうち 20 箇所が具体的に採用可能な人数を示し、その合計は 39 人であった。人数未提示の 7 箇所においては少なくとも 1 人が採用されると想定すると、合計 46 人の採用が見込まれる結果となり、予定する入学定員 3 名を大きく上回る人材需要が示される結果となった。

【グラフ】同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」を修了した人材の採用意向



採用可能な人数の合計 <問 6 結果より>



採用意向を示した 27 箇所の回答結果に基づく。

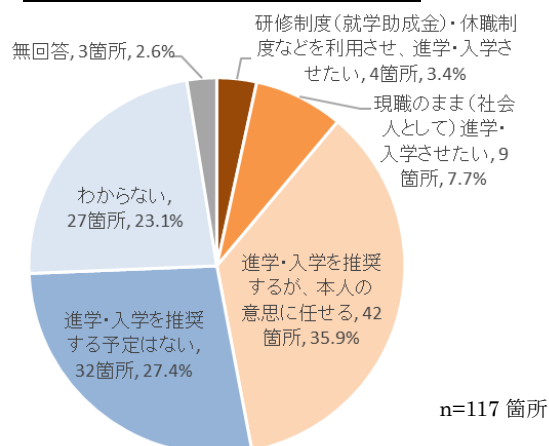
**Point 4** 勤務する看護職者・看護教員に対し、半数近い 55 箇所が同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」進学・入学推奨の意向を示す。

勤務する看護職者・看護教員に対する同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」への進学・入学推奨の意向については次の通りの結果であった。「研修制度（就学助成金）・休職制度などを利用させ、進学・入学させたい」が 4 箇所（全体の 3.4%）、「現職のまま（社会人として）進学・入学させたい」が 9 箇所（同 7.7%）、「進学・入学を推奨するが、本人の意思に任せる」が 42 箇所（同 35.9%）であった。合計すると 55 箇所（同 47.0%）が勤務する看護職者・看護教員に対し、何らかの形で同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」へ進学・入学することを推奨したいと回答した。

以上のことから、看護職者・看護教員が勤務する現場との連携を高め、また大学院の特色を継続的かつ積極的にアピールしていくことで、中長期的に安定した入学者の確保、修了生採用先の確保が見込めるものと推察される。

【グラフ】同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」への進学・入学推奨の意向

勤務する人材の「看護学研究科 博士課程(後期)」への  
進学・入学推奨の有無 <問 7 結果より>





**【別添資料】**

「採用意向についてのアンケート調査用紙」







同志社女子大学大学院  
看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中  
採用意向についてのアンケート調査

(対象：看護職者および看護教員の採用ご担当者様)

同志社女子大学は 2020 年 4 月、京田辺キャンパス（京都府京田辺市興戸）に大学院「看護学研究科 看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」の設置を構想しております。本学はこのアンケート調査を通して、将来修士の採用をご検討いただく皆様から率直なご意見をお聞きし、設置構想の参考にさせていただきたいと考えております。

なお、皆様から寄せられた情報は同志社女子大学大学院「看護学研究科 看護学専攻博士課程(後期)※仮称・設置構想中」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ありません。アンケート調査へのご協力を、謹んでお願い申し上げます。

※このアンケート調査は同志社女子大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

記入例を参考にしてください。

正しい	誤り	正しい	誤り
●	○	□	□
○	○	3	3
○	○	3	3

問 1 貴機関・貴施設の所在地をお答えください。(あてはまるもの 1つにチェックしてください)

- 京都府       奈良県       大阪府       滋賀県       兵庫県  
 和歌山県  
 その他 ※その他の場合、県名をご記入ください。

問 2 貴機関・貴施設の種別をお答えください。(あてはまるもの 1つにチェックしてください)

- 病院       介護保健関連施設       訪問看護ステーション  
 地方自治体       大学  
 その他 ※その他の場合、業種・施設種類をご記入ください。

問 3 貴機関・貴施設に勤務されている看護職者および看護教員の人数をお答えください。(あてはまる数字をご記入ください)

看護師     人     
 保健師    人     
 助産師    人  
 看護教員    人

問 4 貴機関・貴施設における、大学院博士後期課程修了の看護職者・看護教員の勤務の有無についてお答えください。(あてはまるもの 1つにチェックしてください)

- 勤務している ⇒ (ご支障なければ、現時点で勤務されている人数    人)  
 勤務していない  
 わからない





以降の設問は 3 ページ・同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」の概要をご覧ください。

問 5 同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われますか。(あてはまるもの 1つ にチェックしてください)

とても必要である     
  ある程度必要である     
  あまり必要でない     
  必要でない

問 6 貴機関・貴施設において今後、同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」が養成する人材(修了生)を採用したいと思われませんか。(あてはまるもの 1つ にチェックをしてください)

採用したい     
  採用しない     
  どちらともいえない



「採用したい」の場合、よろしければ採用が可能と思われる人数をご記入ください。   人

問 7 貴機関・貴施設で勤務されている看護職者・看護教員を、同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」で学ばせるために、進学・入学させるご意向についてお答えください。(あてはまるもの 1つ にチェックしてください)

研修制度(就学助成金)・休職制度などを利用させ、進学・入学させたい  
 現職のまま(社会人として)進学・入学させたい  
 進学・入学を推奨するが、本人の意思に任せる  
 進学・入学を推奨する予定はない  
 わからない

問 8 同志社女子大学大学院「看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中」に対して、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

質問は以上となります。ご協力いただき、ありがとうございました。



# 同志社女子大学大学院 看護学研究科看護学専攻 博士課程（後期）

※仮称・設置構想中

- 設置年月：2020年4月(予定) ● 入学定員：3名(収容定員9名) ※女子のみ
- 修業年限：3年 ※長期履修制度を導入予定 ● 学位：博士(看護学)
- 開設場所：同志社女子大学 京田辺キャンパス(京都府京田辺市興戸)

## 教育目的

自立した看護学の研究活動を行うのに必要な高度な研究力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを基本的な理念として、看護実践に活用可能な理論の構築や方法の開発を目指し、科学的な思考に基づいた高度な研究力と実践力、教育力を有した女性を育成する。これらの人材を社会に輩出することで、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与することを目的とする。

## 教育研究の特色

(1) 本課程における教育・研究において、以下の人材を育成します。

- 看護現象を探究できる幅広い視野と深い学識を基盤とした教育研究力を看護実践の場で活用し、リーダーシップを発揮しながら看護の課題解決に努めることのできる人材
- 広範かつ深い知識と理解力を有し、専門領域における看護実践の発展に貢献できる人材
- 自立した教育研究者として、実践の場での教育研究に取り組み、看護学の発展に寄与することのできる人材
- 研究課題の成果を広く社会に発信し、健康・福祉の向上に寄与することのできる人材

(2) 教育目的を達成するために、教育課程を3つの科目区分で編成します。

共通科目	看護学における新たな問題や課題を追求するための教育研究の基盤となる科目
専門科目	臨床看護学や広域看護学の視点から、自らの研究課題や研究方法を探究する科目
特別研究	個々の研究計画に基づく一連の研究過程を通して、高度で自立した研究能力を育成する科目

## 修了後の進路

- 看護系大学等の教員、研究員
- 医療施設や行政等の看護職

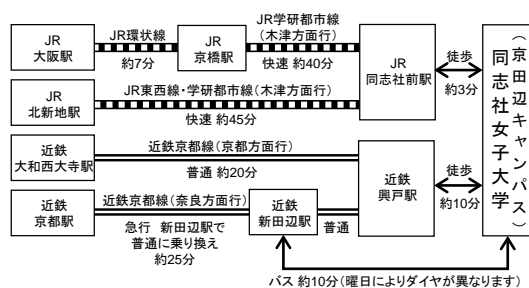
## 学費（他大学を含む）

(円)

	入学金	授業料等	初年次納付金 (合計)
同志社女子大学大学院 看護学研究科看護学専攻 博士課程(後期) ※仮称・設置構想中	180,000	600,000	780,000
<small>&lt;参考:2018年度現在&gt;</small>			
京都橋大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/京都市山科区	200,000	630,000	830,000
関西医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/大阪府枚方市	200,000	600,000	800,000
大阪医科大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/大阪府高槻市	200,000	580,000	780,000
武庫川女子大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程/兵庫県西宮市	280,000	900,000	1,180,000

※いずれも諸会費等を含みません。また、長期履修制度を利用しない場合の金額となります。  
※他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報(2018年9月時点)に基づきます。

## アクセス



### 【各駅からのアクセス】

- JR 同志社前駅より  
改札を出て横断歩道を渡り、正門まで徒歩約3分。
- 近鉄 興戸駅より  
改札を出て線路沿いを進み、歩道橋を渡り、正門まで徒歩約10分。

## 近畿地区 看護系大学院 博士後期課程 学生納付金

No.	所在	設置者	大学院	研究科・専攻		入学定員	入学金	授業料等	初年度学費	在学年間総額
1	京都	国立	京都大学大学院	医学研究科	人間健康科学系専攻	15	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
2	大阪	国立	大阪大学大学院	医学系研究科	保健学専攻	23	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
3	兵庫	国立	神戸大学大学院	保健学研究科	保健学専攻	25	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
国立平均						63	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
4	京都	公立	京都府立医科大学大学院	保健看護研究科	保健看護専攻	3	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
5	大阪	公立	大阪府立大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	5	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
6	大阪	公立	大阪市立大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	¥222,000	¥535,800	¥757,800	¥1,829,400
7	兵庫	公立	兵庫県立大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	4	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
8	兵庫	公立	神戸市看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	¥297,000	¥535,800	¥832,800	¥1,904,400
9	和歌山	公立	和歌山県立医科大学	保健看護学研究科	保健看護学専攻	3	¥282,000	¥535,800	¥817,800	¥1,889,400
公立平均						21	¥274,500	¥535,800	¥810,300	¥1,881,900
10	京都	私立	京都橘大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	¥200,000	¥630,000	¥830,000	¥2,090,000
11	大阪	私立	大阪医科大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	¥200,000	¥580,000	¥780,000	¥1,940,000
12	大阪	私立	関西医科大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	5	¥200,000	¥600,000	¥800,000	¥2,000,000
13	兵庫	私立	関西福祉大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	¥240,000	¥900,000	¥1,140,000	¥2,940,000
14	兵庫	私立	武庫川女子大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	¥280,000	¥900,000	¥1,180,000	¥2,980,000
15	兵庫	私立	甲南女子大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	3	¥200,000	¥500,000	¥700,000	¥1,700,000
私立平均						20	¥220,000	¥685,000	¥905,000	¥2,275,000
合計平均						104	¥254,200	¥595,480	¥849,680	¥2,040,640

※各大学のホームページ等に掲載されたデータに基づき作成(平成30年度現在)

※大阪府立大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、神戸市看護大学は、設置自治体の住民及びその子弟に適用される入学金を記載

※京都大学、大阪大学、神戸大学の入学定員は、記載の専攻全体の入学定員数

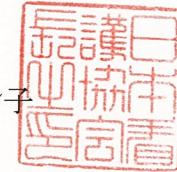
平成30年4月25日

文部科学省

高等教育局長 義本 博司 殿

公益社団法人 日本看護協会

会長 福井 トシ子



## 看護職の人材育成に関する要望書

医療提供体制の改革や地域包括ケアシステムの構築などの看護を取り巻く状況は大きく変化するとともに、看護を必要とする人々は複数の疾患や複雑な社会的背景を有するなど、患者像・利用者像も変化しています。このような状況下において、看護職には状況を的確に判断し対応するための看護実践能力の向上やニーズの多様化に対応した役割発揮が求められています。

つきましては、大学における看護師の育成および大学院における保健師・助産師育成についてご尽力を賜りますようお願いいたします。

### 重点要望事項

大学における質の高い看護学教育課程の推進



## 要望1

# 大学における質の高い看護学教育課程の推進

- 1) 看護学部・看護学科の設置と定員拡充に財政的措置を講じるとともに、4年間の看護師教育の推進を図りたい。また看護学の更なる発展のため、大学院修士課程および博士課程の積極的な設置を推進されたい。あわせて、看護教育専門官の増員等、看護学教育の支援体制を強化されたい。
- 2) 看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定にあたって重視された看護実践能力の育成に不可欠な臨地実習について、ガイドラインを策定されたい。
- 3) 社会人の学び直しに対応するため、各看護系大学において学士編入制度の導入が可能となるよう財政的支援・方策を講じられたい。

### 1) 看護学部・看護学科の設置・定員拡充および4年間の看護師教育の推進

- 大学で看護を学ぶ志願者の増加に対し、看護系大学の定員数の増加が追いついておらず、志願倍率は6倍以上となっている。大学で学びたいと志願する多くの人が、質の高い看護学教育を受けられるよう学部・学科の新設や定員数の増加が必要である。
- また、看護実践能力の育成をはかるため、4年間の看護師教育を推進することが必要である。
- 看護学の更なる発展のため、教育者・研究者や高度専門職業人の育成に向け、大学院修士課程および博士課程の積極的な設置が必要。
- 看護系大学・大学院の増加に対応するため、高等教育局において看護教育専門官を増員し、看護学教育を支援する体制の強化が必要。

### 2) 看護学教育における臨地実習に関するガイドラインの策定

昨年、看護学教育モデル・コア・カリキュラムが策定され、看護実践能力の育成が重視されているが、看護実践能力の育成には、学んだ知識・技術を基に直接ケアの対象から学ぶことのできる臨地実習が重要である。そのため、医学教育や薬学教育と同様、看護学教育においても、臨地実習に関するガイドラインの策定が必要である。

### 3) 学士編入制度の推進

平成29年には2504名の学士保有者が看護職養成機関に入学しており、社会人の学び直しとして高いニーズがある。しかしながら、そのうち大学入学者は89名にとどまり、学士編入制度を導入している看護系大学は7校(入学定員67名)のみで増加していない。自身のこれまでの学びを活かし、質の高い教育を受ける機会として、各看護系大学での学士編入制度の導入が望まれるが、導入が進んでいない現状がある。

看護系大学における  
応募者数・一学年定員数の推移

